

はじめに

平成27年9月に世界に発信できる都市として発展していくことを目指し、『神戸の都心の未来の姿[将来ビジョン]』及び三宮周辺地区の『再整備基本構想』を策定し、三宮周辺地区では、目指すべき将来像として「美しき港町・神戸の玄関口“三宮”」を掲げ、「えき」（6つの駅とバス乗降場）と「まち」をつなぐ神戸の象徴となる新しい駅前空間として「えき～まち空間」を創出することを示しました。

さらに、平成30年9月に、「えき～まち空間」の実現に向け、公共施設の計画や、民間施設に期待される設えなどについて、官民共通の具体的な目標像及びその実現に必要な取り組みを示した、『神戸三宮「えき～まち空間」基本計画』（以下、基本計画）を策定しました。

今後は、基本計画に基づき官民の様々な取り組みを進めていきますが、各事業の連携調整を図り、公共空間と沿道建築物が一体的な都市空間を形成できるよう誘導していくことが非常に重要です。そのため、公共空間に備えるべき役割や機能、周辺建築物のあり方等をまとめた**“景観デザインコード”**を設定し、神戸の玄関口にふさわしい空間の創出を目指します。



神戸らしいまちなみ

神戸は、六甲山系と瀬戸内海に挟まれる地形により東西に長い市街地が生まれ、“海・山・空が感じられる”都市と自然が調和した美しいまちなみが形成されてきました。

また、明治の開港（1868年）を機に市街化が進んだ近代都市ですが、開港以来、広く世界との交流を始め、産業を興し、都市の骨格を築き、多様な生活文化を培ってきたことから、個性豊かなヒト・モノ・コトを受け入れられる**“おおらかな気質”**が育まれてきました。

そういった背景のもと、多様な“文化や暮らし”が醸成し、多彩な特性を持つ「まち」が生み出され、さらに良いものを選び取り洗練することで、現在の神戸の都心部を感じさせる都市と自然が調和した**“上質なまちなみ”**を形成してきました。

これらが都心部における**“神戸らしさ”**をイメージさせるものであり、これらの特色にさらに磨きをかけるとともに、公共空間と沿道建築物が調和し、「まち」の賑わいや居心地の良さ、上質さが感じられる**“神戸らしいまちなみ”**の形成に向けて取り組みます。

景観形成の基本的な考え方

神戸の都心部においては、『神戸の都心の未来の姿[将来ビジョン]』に掲げる柱の1つである「心地よいデザイン」を感じる空間を創出するため、**都市と自然が調和する景観、神戸らしさを感じる“まちなみ形成”、温かみのある“夜間景観”**の3つの基本的な考え方を軸に、“神戸らしさ”が感じられる景観を創出します。

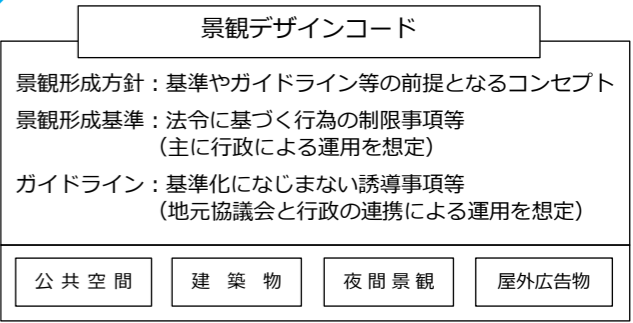
「えき～まち空間」は、成り立ちの異なる多様な「まち」が集積する都心の中心に位置しています。都心全体の求心力やエントランス性を高めるために、公共空間や沿道建築物と、そこを訪れる人々が相互に呼应し調和する、上質で洗練された一体的な都市空間を創出します。



景観デザインコード

景観デザインコードは、地域における景観のあるべき方向性を示すものであり、「公共空間」「建築物」「夜間景観」「屋外広告物」の4つの視点のもと、「景観形成方針」「景観形成基準」「ガイドライン」により構成するものです。

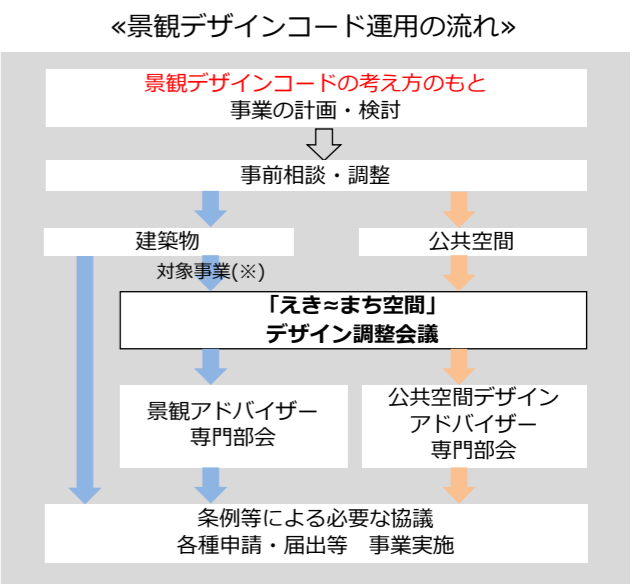
本方針の考え方のもと、今後、「景観形成基準」及び「ガイドライン」の策定をしていきます。



景観デザインコードの運用

「えき～まち空間」は、景観デザインコードの考え方のもと、行政や事業者等が、公共空間と沿道建築物が一体となった空間のあり方を共有し、数値的な基準のみにとらわれず、社会情勢や地区の特性に応じた考え方により、柔軟に協議を重ねることで創りあげられていきます。

「えき～まち空間」において事業を計画される際は、本市が設置する「えき～まち空間」デザイン調整会議を積極的に活用し、また地域団体等の意見も取り入れながら、公共事業と民間事業の計画を同じ場で議論を行い、総合的なデザイン調整を行います。



景観形成方針

景観形成方針は、今後、官民が連携しながら公共空間と建築物が一体となった魅力的な景観を創出するために、実現すべき将来像の共有を図ることを目的としたものであり、先に示した景観形成の基本的な考え方に基づき、以下の**“4つの柱と10の方針”**により構成します。

景観形成方針 4つの柱と10の方針

<p>1 公共空間と「まち」のつながり</p> <p>方針. 1 都心の回遊性の向上</p> <p>方針. 2 「まち」の特性をふまえた空間構成</p> <p>方針. 3 官民一体となったにぎわい</p>	<p>3 高質で穏やかなデザイン</p> <p>方針. 6 高質で穏やかな設え</p> <p>方針. 7 にぎわいのある上品な夜間景観</p> <p>方針. 8 地区や通りの特性をふまえた広告物</p>
<p>2 開放感とゆとりを感じる空間</p> <p>方針. 4 人が主役となる居心地の良い空間</p> <p>方針. 5 海や山、空への広がり</p>	<p>4 新しい神戸の玄関口</p> <p>方針. 9 三宮交差点の顔づくり</p> <p>方針. 10 神戸を象徴する空間</p>



1 公共空間と「まち」のつながり

「三宮クロススクエア」をはじめとする公共空間は、「えき」からの人の流れを受け止めて、周辺の「まち」につなげる重要な役割を担います。そのため、公共空間と沿道建築物が相互ににぎわいを呼び込むとともに、背後の特色ある「まち」へ向けて、にぎわいが広がるよう取り組みます。

方針. 1 都心の回遊性の向上

- 通りに開いた開放感のあるエントランスを設ける等、歩いて楽しい空間を創出します。
- 「えき」から「まち」、「まち」から「まち」へのつながりを意識し、わかりやすい縦動線や見通しを確保する等、人の流れを促す動線計画により、都心の回遊性を高める空間を創出します。

方針. 2 「まち」の特性をふまえた空間構成

- 歴史と用途の違いからくる「まち」の多彩な特性を踏まえた、壁面や低層部のデザイン、植栽の設置や舗装のデザイン等により「まち」の個性を引き立てることで、「まち」のにぎわいに広がりを持たせます。

方針. 3 官民一体となったにぎわい

- 低層部には大きな開口部やピロティ等のオープンスペースを設ける等により、通りに向けて、にぎわいや空間の広がりやを創出します。
- 官民の中間領域における舗装や外構は、道路境界線を意識させない連続性のあるデザインとする等、一体感のある空間を創出します。
- にぎわいの原動力となる用途の施設配置や、エリアマネジメントと連携した人々のアクティビティを誘導する等、公共空間と沿道建築物のにぎわいが相互に呼応する空間を創出します。



2 開放感とゆとりを感じる空間

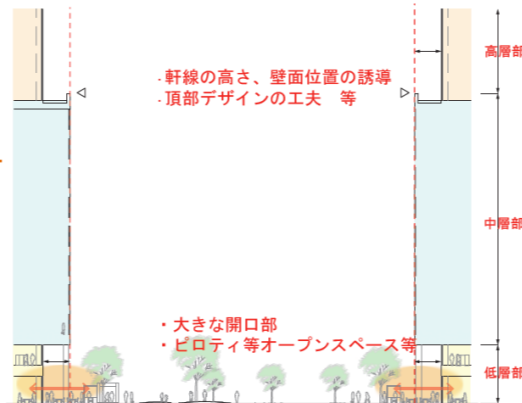
訪れる人々が心地良さをを感じるためには、海や山、空への広がりなどの開放感や、空間的なゆとりを体感できることが重要な要素です。そのため、海や山、空への広がりを感じるまちなみを形成し、豊かな自然と都市の活力が共存する、神戸らしさを感じることでできる空間構成に取り組みます。

方針. 4 人が主役となる居心地の良い空間

- 居心地良く感じる適度な広がりやと囲いのバランスを考えたデザインとします。
- 緑化等により、都心の中の自然やうらおいが感じられる空間を確保します。
- 様々なアクティビティを意識したデザインとすることで、人が滞留し、主役となる空間を創出します。

方針. 5 海や山、空への広がり

- 高層部における壁面のセットバックや軽やかなデザイン等により、圧迫感を感じさせない空間を創出します。
- 軒線の高さや壁面位置の誘導、及び頂部デザインの工夫等により、開放感や統一感のある空間を創出します。
- 樹木等をバランスよく配置する等、都心の中の緑と自然の風景が調和する空間を創出します。



3 高質で穏やかなデザイン

「えき≈まち空間」が昼夜を通して訪れる人々の心に残る魅力的な空間とするために、公共空間や建築物、夜間景観、屋外広告物は、それぞれの「まち」の特徴をふまえて、神戸らしさが感じられる高質で穏やかなデザインとします。

方針. 6 高質で穏やかな設え

- 建築物は、軽やかで細やかなデザインや、素材感を活かした仕上げ、親しみやすい色彩とすることで上質で穏やかなまちなみを創出します。
- 公共空間は、周囲のまちなみや自然環境を引き立たせるデザインや素材とし、一体感のある空間を創出します。

方針. 7 にぎわいのある上品な夜間景観

- 通りに漏れ出る明かりを意識した照明とすることで、建築物から通りへのにぎわいの連続性を演出します。
- 建築物のデザインを活かす照明や、軒線のライトアップによるスカイラインの形成等により、印象的でメリハリのある夜間景観を創出します。
- 通りの連続性を意識した温かみのある照明、植栽のライトアップ等、上品な夜間景観を演出します。

方針. 8 地区や通りの特性をふまえた広告物

- 「まち」の特性に合わせた形態やデザインとすることで、「まち」が持つ魅力を高めます。
- 公共空間や建築物とのデザインの調和により、空間の一体感と低層部のにぎわいを演出します。

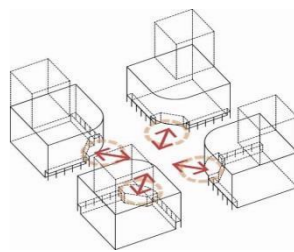


4 新しい神戸の玄関口

「えき≈まち空間」は、それぞれの「まち」に繋がる玄関口であり、神戸“三宮”を印象づける新しい顔となります。そのため、公共空間と沿道建築物とが、互いに向き合い一体感を持った空間とし、神戸を象徴するような景観形成に取り組みます。

方針. 9 三宮交差点の顔づくり

- 三宮交差点を形成する建築物は、神戸の顔を印象付ける軽やかで空間の広がりが感じられる、正面性のあるコーナーデザインとします。
- 三宮交差点に向けてエントランスや見通しを確保する等、にぎわいが相互に呼応する神戸を象徴する街角を形成します。
- 公共空間は、建物コーナー部の空間との連続性、向かい合う建物どうしの見通しを遮らないデザインとする等、神戸の中心にふさわしい空間を創出します。



方針. 10 神戸を象徴する空間

- 神戸の玄関口として上質で洗練されたデザインと、にぎわいやゆとりを感じる空間とすることで、新しい神戸への驚きと心地良さを覚えることができる象徴的な空間を創出します。